



衝撃！

**福音派保守論客チャーリー・カーク暗殺事件から見える
終末時代の兆候**

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。先ほど、衝撃的なニュースを聞きました。



アメリカ保守論客のチャーリー・カーク、若手でまだ 31 歳ですが、アメリカの若者たちの間に非常に大きな影響力を持つ福音派のクリスチャン論客が、ユタ州の大学で演説をしている最中に暗殺されたんです。

今日は、この問題を深掘りしながらお届けします。

チャーリー・カークは日本ではあまり知られていません

が、本当に知る人ぞ知る人物で、特にこれからのアメリカ政治を考えていく時、見逃すことができない人物です。

アメリカの 30 代から 40 代の中に、若手保守論客御三家と言われている人たちがいます。



一人目はベン・シャピーロ。1984 年生まれのユダヤ系アメリカ人で、ハーバード大学の法科大学院を卒業した弁護士であり、評論家です。とにかく論理が非常に精緻というか、説得力があるというか。アメリカの多くの大学キャンパスでは教授陣が左翼の思想を持っているので、その影響をモロに受けている若者たちは当然、左がかったリベラル思想になるのですが、そんな大学に自ら乗り込んで行って、キャンパス内で討論会をするんです。そして、相手を論理でこてんぱんにやっつけるんですよ。

彼は保守系メディアの理論的指導者とも言われていて、知的エリート層にも届くような運動家として有名です。



二人目はキャンディス・オーウェンズ。1989 年生まれ。黒人女性の保守活動家です。彼女が書いた『ブラックアウト』という本、ご覧になったことがありますか？私も持っていますが非常に良い本です。

彼女は黒人女性なのでマイノリティなんですよ。アメリカの中で黒人はマイノリティだし、政治の世界では黒人かつ女性というのは、もっともっとマイノリティですよ。

マイノリティは、基本的にはリベラル派に流れて行くのが通例です。彼女も元々リベラルだったんですけど、その論説を

ずっと聞いているうちに違和感を感じて、ちょっとおかしいんじゃないかと。それで転向したんですね。そして、「リベラルのここがおかしい！今アメリカを本当の

意味で正気に保つためには、保守に立つべきだ！」と論じていくんです。マイノリティでありながら反リベラルを打ち出すということで、強烈な存在なんです。彼女もチャーリー・カークと一緒に仕事をしていました。



三人目はチャーリー・カーク。31歳。アメリカの一般の若者たちへの影響力を考えると、彼は断トツなんです。彼は非エリートです。大学を出てない。ここに「トランプ氏支持の活動家、銃撃で死亡」と出てますが、これだけでは、彼の影響力の本当のすごさを知ることができません。

彼はターニング・ポイントUSAという団体を設立して、全米の大学や高校に数千の支部を展開しているんです。左派的と言われていた教育現場に対して、保守思想の拠点ということでやっていくんですが、これをつくったの、何歳の時だと思います？19歳ですよ。わずか19歳。

ターニング・ポイントUSAの総会には、毎年1万人を軽く超える人がブワッと集まって来る。若者を保守運動に組織化するモデルを築いた人物と言われています。同時に、Student for Trumpという団体の立ち上げに関与して、若者層のトランプ支持拡大に大貢献をしたんです。

トランプ大統領が再選されて就任した時、前方の席、つまり上席に座ってました。トランプは、彼の協力がいかに自分の再選に寄与したかを認めているんです。トランプ大統領は2期目なので3期目はないんですが、引退後でもトランプ派の次世代支持基盤を形成した点において、大きな貢献を果たしました。

ポッドキャストではチャーリー・カークショーという番組をやってますが、1回話をすると数百万のダウンロードなんです。私もあやかりたいわ、ほんまに。SNSのフォロワーも数百万の規模で、ものすごい影響力を持っていて、若者にティーンチするデジタル時代の保守派の筆頭ということで影響を与えていたんです。

そして何よりも、彼は福音派のクリスチャンです。彼がいつも福音派の立場から言っていることを3つ絞るなら、信仰・家族・伝統的価値観。これを何度も何度も繰り返すんですよ。だから当然、LGBTQには反対。墮胎にも反対。アメリカの伝統的価値観を守るべきだ！と聖書の思想に立っている。極論を言うときもあるので、私は彼が言っている全てを支持しているのではないんですが、大きな影響力を、特に若者世代に与えることができる人物。

その彼が、ユタ州の大学で演説している最中に暗殺された。病院に運ばれて、そして亡くなりました。31歳。2人の子供のお父さんですよ。ユタ州の警察長官が「今アメリカは、いったいどうなってるんだ？」大統領候補の時のトランプ暗殺未遂から始まって、暗殺未遂がいっぱい出てるじゃ

ないですか。「アメリカって言論の自由がある国じゃないのか？聞きたくないような意見であっても、言論を自由に戦わせることによって、その後により優れた結論が見えてくることが多いじゃないか。それを暴力で相手を黙らせるって、いったいどういうことなのか！」

こういう暗殺事件のとき、必ず拍手喝采する奴がおるんですよ。「そういう人たちに向かって言いたい。鏡の前に立って、自分の顔見てみ。今はそんなことを喜んでる時代ですか？そんな場合じゃないでしょ。そうではなく、アメリカの将来はどうなるのか。彼のために、アメリカの将来のために、神の前に出て祈ってほしい」と記者会見で言ってました。私も本当にそうだなと思いました。

ところで、彼は暗殺される直前まで、自分のポッドキャストで何を語っていたのか。ガザの食糧危機の問題が、ずーっと垂れ流されてるじゃないですか。

世界中のマスコミによるだけでなく、ユニセフが、ヤラセだと分かっている映像や動画を使って「貧困でこんなに困ってる！」と、世界中の善男善女から寄付金を集めている。僕はユニセフにずっと募金してたんですけど、あれを見て抜けました。

「ガザの飢饉と言うけど、イスラエルは有り余るほどの食糧・水・薬品・様々な援助をしてるんです。それが渡ってないとするなら、それはハマスが横領して転売しているからで、責められるべきはイスラエルではなくてハマスでしょ。なぜハマスを責めないんですか？」ということを書いていました。その彼がやられた。

今のアメリカは、反ユダヤ主義が、右からも左からも吹き荒れているんですね。

統計まとめ (2024年)	件数・割合
宗教的憎悪犯罪の総数	不明 (全体の23.5%が宗教犯罪)
ユダヤ人を対象とした宗教的憎悪犯罪	1,938件 (69%)
全球hate crime件数	11,679件
増加率 (2023→2024)	約5.8%

考察

- ユダヤ人はアメリカの人口全体の約2%程度ですが、宗教的hate crimeの約3分の2を占める突出した被害状況となっています。
- このような偏った被害分布は、ユダヤ人コミュニティの安全に一度の注意と対応が求められる現状を示しています。特に地方対策だけでなく連邦レベルでの対策も不可欠です。

これは FBI の 2024 年度の憎悪犯罪／ヘイトクライムの統計です。11679 件。そのうち 23.5%が宗教を理由としたヘイトクライムなんですよ。

ユダヤ人はアメリカ人口の 2%にすぎないのに、宗教的ヘイトクライムの 2/3 (69%) はユダヤ人が攻撃されているんです。アメリカでは今、ユダヤ人が目の敵にされるような風潮になっている。

では、どんな人たちが反ユダヤ主義、ユダヤ人を攻撃しているのか。

これがまた、不思議な現象なんです。極左と極右の両方から責められてる。

極左は左翼的思想・共産主義的思想の中で極端な人たちのことですね。



アメリカで台頭する極左アンチファとは何か—増幅し合う極右 ...

これは「アメリカで台頭する極左アンチファとは何か」というタイトルの写真です。

極左思想は反シオニズム。「イスラエルという国は、欧米の帝国主義が中東の中に人工的に植え付けたものである。欧米列強の国益のために、中東世界に代理組織として人工的に造った国がイスラエルだ」

米ソ冷戦時代、中東に共産主義が広がることを抑えるために、アメリカは唯一の民

主主義国イスラエルを後押ししました。そういうことで、「アメリカの中東戦略のためにイスラエルが造られたんだ」というような間違っただけの考え、誤解させるような世界の流れがあったんですね。

あのね。アメリカに協力してたら、アメリカの人工国家になるんですか？

トルコやイランだって、中東の中ではアメリカと仲良くやっている時がありましたよね。トルコは今でも NATO のメンバーですよ。だからといって、トルコはアメリカやヨーロッパの人工国家だと言う人いますか？いないじゃないですか。

事実の一面だけ取り上げて、自分たちが主張したいことに無理やり結び付けて説明しているけど、それは歴史をちゃんと勉強している人から見ると、為にする議論なんです。

イスラエルという国は、欧米がこぞって反対するのを、ユダヤ人たちがなんとか勝ち取ろうと、どれほど苦勞し、そして奇跡が重なることによって出来上がったかというのは、『世界は聖書でできている』の本の中でも、「ユダヤ人入門シリーズ」の中でもお話ししているのだから、よければ過去の動画を見ていただきたいと思います。イスラエルは欧米が人工的に造った国ではなく、ユダヤ人たちが自立的に努力し、それに神の奇跡が重なることによって、はじめて実現した国なんですよ。だから、欧米の人工国家だという極左の考えは全くの間違いです。

ところが、極左の正反対の極右、右翼の中でも極端な右翼の人たちも反ユダヤ主義なんです。



この白人男性は 2018 年、アメリカのピッツバーグにあった命の木シナゴークを銃撃し、ユダヤ人 11 人以上を殺害しました。なぜユダヤ人を襲撃したのか。彼は白人至上主義者で極右なんです。 「ユダヤ人は一見白人に見えるけど混ざっている。中東から出てきたものであって、純粋な白人とは言えない。今アメリカに移民がどんどん増えているのは、ユダヤ人が邪悪な移民たちをアメリカに連れて来るんだ」と、SNS にずっと投稿してるんです。

つまり、「移民問題の黒幕はユダヤ人だ。アメリカのユダヤ人の知識人たちが、移民をどんどん入れてアメリカを元気にしようという間違っただけの考えをやっている。その運動の根底にあるのは、アメリカを滅ぼすことなんだ。」

移民問題の元凶はユダヤ人にあると。これは完全な妄想なんです。ユダヤ人を滅ぼすことこそが移民問題の解決になるということで、シナゴークを襲ったんですね。



これは 3 年前に起こったことです。迷彩色の服を着ている若者が、パトカーに乗せられようとしている。彼は Peyton Johnson、18 歳ですよ。18 歳。2022 年 5 月 14 日、バッファロー乱射事件を起こしました。西暦の 5 月 14 日はイスラエル建国記念日 / 独立記念日です。

彼はニューヨーク州バッファロー市のスーパーマー

ケット、特に黒人が多い地区のスーパーマーケットに入り込んで銃を乱射し、10人死亡、3人負傷。犠牲者の大半は黒人でした。

彼は迷彩服を着て、頭にゴープロというカメラを着けて、黒人たちを殺していく様子を実況中継しながら SNS に上げていました。逮捕後も全く反省の色がない。

彼は、ユダヤ人や左派エリートが、アメリカの白人を有色人種に置き換える計画を仕組んでいると考えていたんですね。さっきの人物と同じように、移民流入の黒幕はユダヤ人だという発想なんです。自分の SNS に色々書いているんですが、「ユダヤ人こそ真の問題である。だが、時が来れば対処できる」「ユダヤ人は西洋社会が抱えた最大の問題で、告発し、殺されるべきだ。追放でもいい」「今は黒人を狙っているけど、最終標的はユダヤ人だ！」陰謀論に凝り固まって、こんなテロ事件を起こしたんですね。

極左は反シオニズム。極右は反ユダヤ主義。この2つの考え方は両極端ですが、ことユダヤ人を憎むという点では一致している。アメリカのユダヤ人たちは、右からも左からも挟み撃ちされるかのように、反ユダヤ主義でどんどん抑え込まれようとしている…時に立ち上がって、「それ、おかしいじゃないか！」と、数百万人の影響力を持っているチャーリー・カークがずっと言論で戦って来たんです。

この言論があまりにも説得力があったので、殺されました。

アメリカはどうなって行くのか。いや、アメリカだけじゃない。

イスラエルのことを正しく言うということが、とうとう命懸けの時代になりました。日本も、そんなに遠い未来ではないかもしれません。

最後に旧約聖書の**オバデア書**を紹介します。

オバデア書はあまり引かれることがないですが、反ユダヤ主義を明確に戒める預言で満ちている書物です。

アブラハムにイサクが生まれ、イサクにはヤコブとエサウの双子が生まれました。エサウの子孫がエドム人。ヤコブの子孫がユダヤ人。エサウ/エドム人はユダヤ人と親戚関係です。そのエドム人に対して書いてあります。

オバデア 1 章

12 おまえ（エドム人）は兄弟（ユダヤ人）の災難の日に、それを見てはならない。ユダの子らの滅びの日に、彼らのことで喜んではならない。その苦難の日に大口をたたいてはならない。

「ざまあみろ、ユダヤ人！こんなに酷い目に遭いやがって！」と喜んではならない。

15 なぜなら、主の日がすべての国々に近づいているからだ。おまえは、自分がしたように、自分にもされる。おまえの報いは、お前の頭上に返る。

